

昭和60年11月5日首都特別承認雑誌認可8637号 昭和52年11月28日第3種郵便物認可 平成17年5月20日(毎月1回20日)発行 第27巻第5号通巻355号 雑誌コード15433

EXCITING MONTHLY MAGAZINE FOR HANDBALLER / SINCE 1977

スポーツイベントハンドボール

MAY Vol.27 No.5

スポーツイベント

5

2005.

800YEN

本体価格 762円

<http://www.sportsevent.jp>

第28回 高校センバツ

沖縄アベック制覇
興南&陽明がV

Special Reports
HC名古屋

SEASON FINALE

大崎電気 悲願の初V
広島メイプルレッズ 執念でV7

29th JHL PLAY-OFF

VICTOR'S EYE 東 俊介 (大崎電気)



第29回 日本ハンドボールリーグ 初優勝



応援ありがとうございました

大崎電気ハンドボール部



VICTOR'S EYE

東 俊介

Azuma Syunsuke
(大崎電気)

1975年9月16日生まれ、29才。191cm・98kg。石川県出身。泉中学で出会ったハンドボールに、酒井信幸監督率いる金沢市工高でいっそうのめりこんで、以来、ハンドボールひと筋。国際武道大を経て、大崎電気に進み、地道な筋力強化で体重を20kgアップさせて台頭。いまや押しも押されぬポストマンとして満開間近。父・幸信さん、母・幸子さん、そして最愛のパートナー、妻・直美さんと強力サポーターにも恵まれ、さらに上をめざす。「ヤンキーながらも文学少年だった」と自称するおと、文才はかなりのもの。中川善雄選手のホームページで担当するコラム「Azumaism」も人気急上昇中。

へこんではたくましく再浮上
スター軍団で独特の光を放つ

華やかなスター軍団・大崎電気の中で、味わい深い異彩を放つのがストプレイヤー東俊介。

ハンドボールの神様は、彼に「お前は本当に『勝ちたい』と思っているのか」「心からハンドボールを好きだと言えるのか」とばかりに、数々の試練を与えてきた。

たたきのめされ、へこんだことは数知れず。

それでも、向上心を忘れることなく、「いつかは見とれ!」と、その都度、たくましさを増して、力強くはい上がってきた。

「たたきあげ」(大崎電気・首藤信一監督)という表現が、ピッタリとあてはまる男。

その東が、ハンドボール人生で初めて達成感を味わい、自然と涙が湧き出てきたのが、日本リーグ初制覇を果たした瞬間だった。

それにしても、昨年末から彼に与えられた試練は厳しいものだった。

昨年12月の全日本総合決勝。24-23と1点リードして残り時間はわずか。ここで、キャプテン中川善雄は東へのポストパスを送った。

湧永製薬D Fの厳しいマークもあって、このパスをキャッチしきれなかった東。同点打へとつながり、大崎電気は延長戦で力尽きた。

「善雄さんが、自分を信頼して出してくれたパスをとれなかった…」

敗戦は自分のせいだという悔しさ

が残った。

年明けには、チュニジアでの世界選手権代表候補選手18人の一員として、フランスでの直前トレーニングに参加。テストマッチでも、余すところなく自分をアピールできたと確信していた。

しかし、結果は吉田耕平(アラコ九州)とともに、代表メンバーからは外れる無情の通告を受けた。

自分のことを思って涙してくれた宿舎で同室の羽賀太一(ホンダ)ら、チュニジアへ旅立つ仲間を見送り、フランスから吉田と2人で帰国。

新たな悔しさが加わり、東の心はへこんだ。

ここからより強くなつてはいあがってくるのが東。

プレーオフでは、戦力的には大崎電気の優位と言われたものの、豊田賢治や猪妻正活らのケガもあったし、絶対優位の状況から大逆転負けを喫した昨年末を受けての戦いだけに、「今度は負けられない。とにかく結果を出さねば」のプレッシャーにも見舞われた。

その苦境を、悔しさ、苦しさを分かち合ってきた仲間とともに乗り越えての悲願達成。

東が描いてきた大きな夢の1つがかなった瞬間だった。

振り返れば、石川・金沢市工高に進んで、酒井信幸監督と出会い大きく開けたハンドボール人生。

大学卒業に際し、当時、全盛の中

村荷役入社が決まりかけていたが、断るつもりで会った大崎電気監督・山本興道さん(当時)にほれ、「山本さんを男にしたい」と方針転換していなければ、どうなっていたか。

そして大崎入社からの3年間、日本リーグは6位、7位、7位と低迷。「もう辞めよう」と思っていたときに、その後、ぶつかり合いを経て、すっかり心酔、「勝てたらいいな」の漠然とした思いを「勝ちたい」という明確な意欲へと変えてくれるリーダー中川善雄らが、三陽商会休部とともに移籍してきていなかったら…。

かなりの時間と試練を要したものの、東の夢をかなえ、彼を魅力あふれる男へと成長させる運命の糸もしっかりとつながっていたのだ。

もちろん、日本リーグ制覇がゴールではない。

「リーグを勝ってみて、6連覇してきたホンダの偉大さを思い知らされました。真価を問われる次が大切ですよね。今回も、内容とかは決して納得してませんしね。」

そして、今度こそナショナルでもしっかりと結果を残したい」

三十路へのカウントダウンが始まって、なお、少年のような真っ直ぐさで突き進む東俊介。

待ち受ける新たな試練をたくましく乗り越え、第2、第3の大きな夢を成し遂げ、再び湧き出る涙を、しっかりと見届けたい。